

奈良県立橿原考古学研究所では、橿原市四条町の慈明寺遺跡で発掘調査を実施しました。発掘調査の結果、(1) 藤原京の道路、(2) 弥生時代の生活跡が見つかりました。

発掘調査の場所は、もと奈良県立農業試験場があった跡地です。この敷地を、3 箇年の計画で調査をしており、今年はその2年目です。昨年の調査では、弥生時代前期の溝(集落を何重もの溝で囲う、「環濠」と考えられます)が見つかりました。今回は、主にその西側で調査を実施しました。

(1) 藤原京の道路

調査地は藤原京の右京五条九坊に該当します(表紙参照)。ほぼ正方形の右京五条九坊の敷地は、東西・南北の二つの道路により、四つの小さい敷地(坪)に区画されています。

右京五条九坊の敷地を通る南北の道路を、西九坊坊間路といいます。発掘調査では、西九坊坊間路の両側に掘られた側溝が見つかりました(前頁の⑤)。また、同じく敷地を通る東西の道路を、五条条間路といいます。この五条条間路の北側に掘られた側溝も見つかりました。ただ、いずれも残りが悪く、途切れ途切れにしか見つかりませんでした。

ところで、このようにして区画された坪は、普通は宅地として利用されることが一般的ですので、建物跡や井戸などが見つかることがよくあります。ところが、今回の調査地では、建物も井戸も見つかりませんでした。どうやら、この辺りは土地の造成まではしたものの、実際には宅地として利用されずに藤原京の廃絶を迎えたようです。

また、藤原京に先立つ古墳時代中期(5世紀)の遺構として、井戸が1基見つかりました(No.9井戸)。わずかに1基にすぎませんが、5世紀ごろに人が住んでいたことがわかります。慈明寺遺跡の北西側にある四条シナノ遺跡では、5世紀後半の古墳群が見つかっています。もしかしたら、その古墳群を築いた人々が、ここに住んでいたのかもしれない。

(2) 弥生時代の生活跡

弥生時代前期(紀元前5世紀ごろ)と、後期(2世紀ごろ)の遺構が見つかりました。

地面に掘られた穴(No.2、No.3 土坑)から、流紋岩(りゅうもんがん)という石がたくさん出土しました。流紋岩は、弥生時代前期には石庖丁(稲穂を刈り取るための石器)によく使われています。出土した流紋岩は、すべて鋭く割れています。石器を作るための材料を集めていたのか、それともこの辺りで石器を作っていたのか。容易に謎を解けそうにはありませんが、弥生時代の生活の一場面を垣間見る思いがします。

後期には、井戸(No.23 井戸)が掘られていますので、この辺りに人々が住んでいたことが窺えます。彼らは、住まいの北を流れる川(No.45 河川)に対して、蛇行する川の屈曲点を連結するように、溝を引いています(No.30 溝)。この辺りは低湿な環境ですので、大雨の際には川があふれやすかったのでしょう。このため、自然の川に手を加えて排水性を良くしたのだらうと考えられます。弥生時代の人々の、住環境を整えるための治水の努力が窺えます。

近くで住居などが見つまっているわけではないのですが、溝の中から、たくさんの土器が出土しました。人々がこの場所を往来する機会が多かったことを示すかのようです。それだけ、当時の人々には重要な溝であったということでしょう。

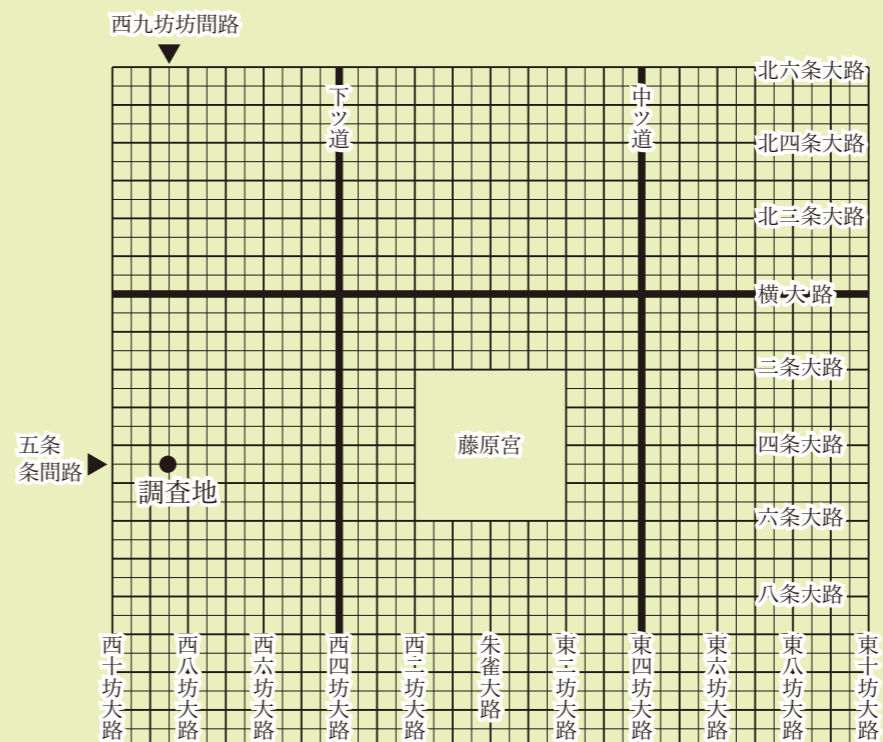
藤原京右京五条九坊・慈明寺遺跡現地公開資料

2020年12月12日 奈良県立橿原考古学研究所  
 〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地  
 Tel. 0744-24-1101 <http://www.kashikoken.jp>

(過去の現地説明会資料は、こちらからご覧いただけます)→



南東上空からみた調査地(四條大路の南側、西九坊大路の東側に位置する)



藤原京は、694年から710年までの日本の都です。都の中は、左の図のように直線の道路で東西・南北に区画されていました。中心付近に藤原宮があり、その中の最も主要な建物が、大極殿です。

調査地は、藤原京右京五条九坊です。これは、藤原京内の位置の表し方で、藤原宮から南をみた場合の右手が右京、右京の四條大路～五条大路の間で、かつ西八坊大路～西九坊大路の間の区画という意味です。



⑤西九坊坊間路

南北に通る道路の、両側の側溝がみつかりました。せっかく道路を通したのに、宅地としては利用されずに終わったようです。



⑥弥生時代後期の溝 (No.30 溝)

右上④の写真と同じ溝です。ここからは、土器がたくさん出土しました。近くに住居が見つかるわけではありませんが、これだけたくさんの土器が持ち込まれるとは、よほど人々にとって重要な溝であったのかもしれません。



⑦古墳時代中期の井戸 (No.9 井戸)

慈明寺遺跡では珍しく、古墳時代中期の遺構がみつかりました。この頃、慈明寺遺跡の北にある四条シナノ遺跡 (表紙参照) では古墳群が作られています。その古墳を作った人々が住んでいたのでしょうか。



①弥生時代後期の井戸 (No.23 井戸)

井戸を埋める際に土器を放り込んだかのようです。この辺りに人々が住まいを構えていたことが窺えます。



④弥生時代後期の溝 (No.30 溝) と自然河川 (No.45 河川)  
自然河川 (右) を連結するように、溝 (左) を引いています。川の水を排水し、住環境を整えるための工夫でしょう。



③弥生時代前期の穴 (No.2 土坑)

穴の底から弥生時代前期の土器が出土しました。遺物展示コーナーでご覧いただけます。



②弥生時代前期の穴 (No.3 土坑)

石器の材料となる石がたくさん出土しました。この石は流紋岩 (りゅうもんがん) といって、石庖丁 (稲穂を刈り取るための石器) を作るのに、よく使われます。石器の材料を集めてきたのでしょうか。